



<論説>種々の確率分布の関係

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-08-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 今川, 正 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24729/00001952">https://doi.org/10.24729/00001952</a>

# 種々の確率分布の関係

今 川 正

1. はじめに
2. 数学よりの準備  
ガンマ関数, ベータ関数, ベータ関数とベータ関数との関係
3. ガンマ関数にもとづくもの  
ガンマ分布, カイ 2 乗分布, 規準正規分布
4. ベータ関数にもとづくもの  
ベータ分布, デルタ分布, スネデカーの  $F$  分布, スチューデントの  $t$  分布  
補論 商の分布

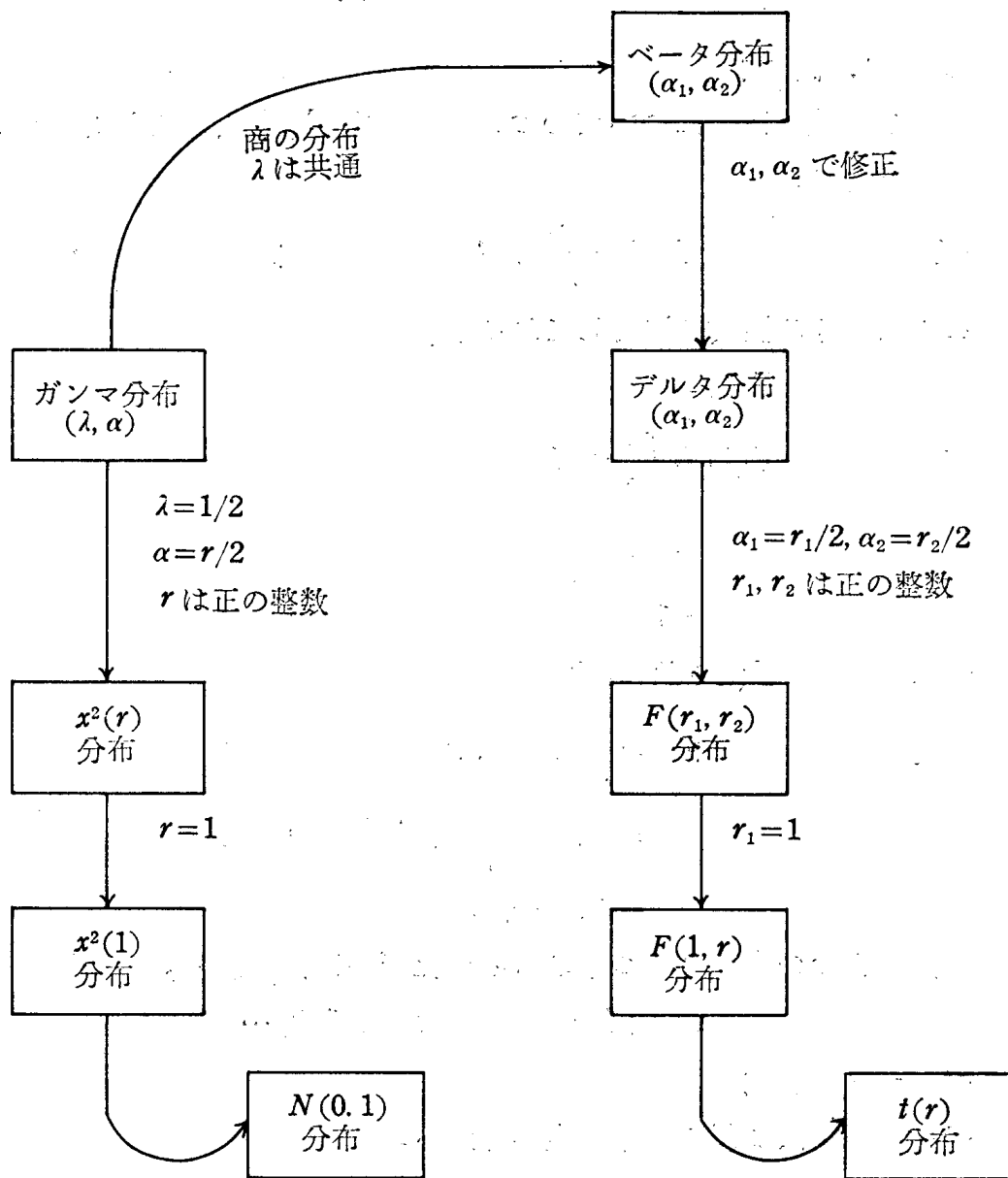
## 1. は じ め に

ここで経済の統計的分析においてしばしば用いられている 6 種類の分布関数の関係を明らかにする。(図 1 を参照のこと)

すなわち, まずガンマ関数, ベータ関数およびその関係について数学的な準備をしたあとで, ガンマ関数にもついてガンマ分布, カイ 2 乗分布, 規準正規分布を導出する。ついで補論の商の分布の結果を用いてガンマ分布よりベータ分布をもとめる。後者はベータ関数にもとづいており, それよりスネデカーの  $F$  分布, スチューデントの  $t$  分布を導出する。(図 1 の縦の関係)

ベータ分布よりこれらの分布をもとめるにあたってデルタ分布を新しくつくった。そして 6 種類の分布の関係を明らかにあたってデルタ分布を主軸として用いた。なお, ここで用いたベータ分布は統計学のほとんどのテキストにおいて顧りみられていない第 2 種のベータ分布

図1 種々の確率分布の関係



Γ 関数に  
もとづくもの

B 関数に  
もとづくもの

である。

なお、ガンマ分布よりデルタ分布、カイ 2 乗分布より F 分布を容易にもとめることができる。(図 1 の横の関係)

## 2. 数学よりの準備

## ガンマ関数

任意の実数  $\alpha > 0$  についてのつぎの積分を  $\Gamma(\alpha)$  とあらわし、ガンマ関数とよぶ。

$$(1) \quad \Gamma(\alpha) = \int_0^{\infty} x^{\alpha-1} e^{-x} dx, \quad \alpha > 0$$

ここでつぎの性質に注目しておこう。

定理  $\Gamma(1) = 1$

証明 
$$\begin{aligned} \Gamma(1) &= \int_0^{\infty} e^{-x} dx \\ &= -e^{-x} \Big|_0^{\infty} \\ &= 1 \end{aligned}$$

定理  $\Gamma(\alpha+1) = \alpha\Gamma(\alpha)$

証明 
$$\begin{aligned} \Gamma(\alpha+1) &= \int_0^{\infty} x^{\alpha} e^{-x} dx \\ &= -x^{\alpha} e^{-x} \Big|_0^{\infty} + \int_0^{\infty} \alpha x^{\alpha-1} e^{-x} dx \\ &= 0 + \alpha\Gamma(\alpha) \end{aligned}$$

うへの2つの定理よりつぎのものがただちにえられる。

$$\Gamma(n+1) = n!, \quad n = 0, 1, 2, \dots$$

## ベータ関数

ベータ関数はつぎの積分で定義される。

$$B(\alpha_1, \alpha_2) = \int_0^{\infty} \frac{u^{\alpha_1-1}}{(1+u)^{\alpha_1+\alpha_2}} du \quad \alpha_1 > 0, \alpha_2 > 0$$

ここで変数変換  $u = \sin^2 \theta$  を施す。このとき

$$1-u = 1 - \sin^2 \theta = \cos^2 \theta$$

$$du = 2 \sin \theta \cos \theta d\theta$$

であり、 $u$  の  $0, 1$  には  $\theta$  の  $0, \pi/2$  が対応するので、つぎのものをえる。

$$(2) \quad B(\alpha_1, \alpha_2) = 2 \int_0^{\pi/2} (\sin \theta)^{2\alpha_1-1} (\cos \theta)^{2\alpha_2-1} d\theta$$

これよりつぎのものを容易にえることができる。

$$(3) \quad B\left(\frac{1}{2}, \frac{1}{2}\right) = \pi$$

### ベータ関数とガンマ関数との関係

定理 ベータ関数とガンマ関数とのあいだにはつぎの関係がある。

$$(4) \quad B(\alpha_1, \alpha_2) = \frac{\Gamma(\alpha_1)\Gamma(\alpha_2)}{\Gamma(\alpha_1 + \alpha_2)}$$

証明 ガンマ関数(1)において変数変換  $x = u^2/2$  を施し、つぎのよう  
にあらわしておく。

$$\Gamma(\alpha_1) = \int_0^\infty \left(\frac{u^2}{2}\right)^{\alpha_1-1} e^{-u^2/2} u du$$

同様の式をもう1つつくり、その2つを掛け、極座標に変え、つぎの  
ものをえる。

$$\begin{aligned} & \Gamma(\alpha_1)\Gamma(\alpha_2) \\ &= \int_0^\infty \int_0^\infty \left(\frac{u^2}{2}\right)^{\alpha_1-1} \left(\frac{v^2}{2}\right)^{\alpha_2-1} e^{-(u^2+v^2)/2} u v du dv \\ &= \int_0^{\pi/2} \int_0^\infty \left(\frac{r^2}{2}\right)^{\alpha_1+\alpha_2-1} 2(\cos \theta)^{2\alpha_1-1} (\sin \theta)^{2\alpha_2-1} e^{-r^2/2} r dr d\theta \\ &= \int_0^\infty y^{\alpha_1+\alpha_2-1} e^{-y} dy \int_0^{\pi/2} (\cos \theta)^{2\alpha_1-1} (\sin \theta)^{2\alpha_2-1} d\theta \quad y = r^2/2 \\ &= \Gamma(\alpha_1 + \alpha_2) B(\alpha_1, \alpha_2) \end{aligned} \quad (1), (4)$$

これよりただちにつぎのものがえられる。

$$B(\alpha_1, \alpha_2) = B(\alpha_2, \alpha_1)$$

(3), (4)よりつぎのものがえられる。

$$\Gamma(1/2) = \sqrt{\pi}$$

### 3. ガンマ関数にもとづくもの

#### ガンマ分布

まえに式(1)で定義したガンマ関数において  $x = \lambda y$  ( $\lambda > 0$ ) とおき、  
つぎの形であらわしておく。

$$1 = \int_0^\infty \frac{\lambda^\alpha}{\Gamma(\alpha)} e^{-\lambda y} y^{\alpha-1} dy$$

$\alpha > 0, \lambda > 0, \Gamma(\alpha) > 0$  であるから、つぎのものが確率密度関数である。そしてこの密度をもつランダム変数  $Y$  はパラメーター  $\alpha, \lambda$  のガンマ分布をもつといわれる。

$$(5) \quad f_G(y) = \frac{\lambda^\alpha}{\Gamma(\alpha)} e^{-\lambda y} y^{\alpha-1}$$

$y \leq 0$  のとき  $f_G(y) = 0$  である。

定理 パラメーター  $\lambda, \alpha$  のガンマ分布の  $k$  次モーメントはつぎの通りである。

$$\mu_k' = \left(\frac{1}{\lambda}\right)^k \frac{\Gamma(\alpha+k)}{\Gamma(\alpha)}$$

証明 
$$\begin{aligned} \mu_k' &= \int_0^\infty \frac{\lambda^\alpha}{\Gamma(\alpha)} e^{-\lambda y} y^{\alpha-1} y^k dy \\ &= \frac{\lambda^\alpha}{\Gamma(\alpha)} \left(\frac{\lambda^{\alpha+k}}{\Gamma(\alpha+k)}\right)^{-1} \int_0^\infty \frac{\lambda^{\alpha+k}}{\Gamma(\alpha+k)} e^{-\lambda y} y^{\alpha+k-1} dy \\ &= \left(\frac{1}{\lambda}\right)^k \frac{\Gamma(\alpha+k)}{\Gamma(\alpha)} \end{aligned}$$

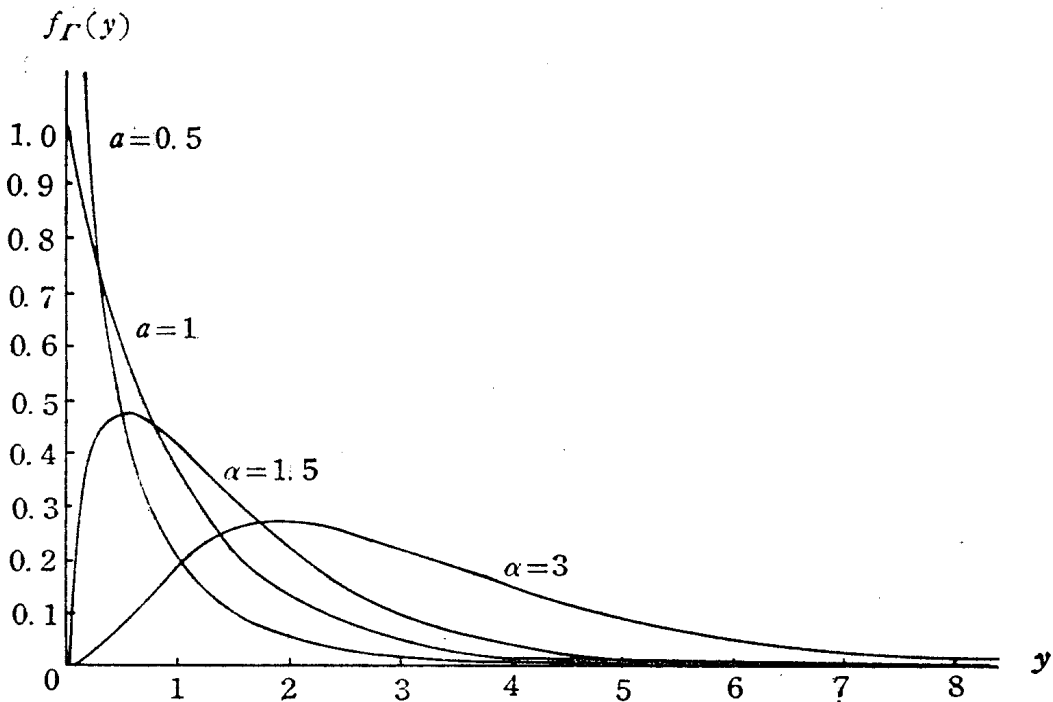


図2 ガンマ分布 ( $\lambda=1$ )

0次モーメントは1になる。(なお、あとで述べる他のすべての密度関数についても、1になることを容易に示すことができる)。

定理 パラメーター  $\lambda, \alpha$  のガンマ分布の1次, 2次のモーメントはつぎの通りである。

$$\begin{aligned}\mu_1' &= \alpha/\lambda \\ \mu_2' &= (\alpha+1)\alpha/\lambda^2\end{aligned}$$

### カイ2乗分布

パラメーター  $\lambda, \alpha$  のガンマ分布において  $\lambda, \alpha$  を  $1/2, r/2, r$  は正の整数, とおいたものを自由度  $r$  のカイ2乗分布という。

定理 自由度  $r$  のカイ2乗分布の密度関数はつぎのもので与えられる。

$$f_{x^2}(y) = \frac{(1/2)^{r/2}}{\Gamma(r/2)} e^{-y/2} y^{r/2-1}, \quad y > 0$$

$y \leq 0$  のとき  $f_{x^2}(y) = 0$  である。

定理 自由度  $r$  のカイ2乗分布の  $k$  次, 1次, 2次のモーメントはつぎの通りである。

$$\begin{aligned}\mu_k' &= 2^k \frac{1}{\Gamma(r/2)} \Gamma\left(\frac{r}{2} + k\right) \\ \mu_1' &= r \\ \mu_2' &= (r+2)r\end{aligned}$$

### 規準正規分布

定理  $Y$  が自由度1のカイ2乗分布をもつとき  $Z = Y^{1/2}$  はつぎの密度関数をもち, 規準正規分布をもつといわれる。

$$f_z(z) = \frac{(1/2)^{1/2}}{\Gamma(1/2)} e^{-z^2/2}, \quad -\infty < z < \infty$$

証明  $r=1$  のとき  $Y$  の密度関数はつぎのようにあらわされる。

$$f_Y(y) = \frac{(1/2)}{\Gamma(1/2)} e^{-y/2} y^{-1/2}, \quad y > 0$$

これにつぎの変換を施して  $z$  の密度関数をもとめる。

$$z = y^{1/2}, \quad y = z^2, \quad dy/dz = 2z$$

まず  $z > 0$  のときにはつぎの密度関数をえる。

$$f_z^*(z) = \frac{z(1/2)^{1/2}}{\Gamma(1/2)} e^{-z^2/2}, \quad z > 0$$

$z < 0$  のときには  $-z$  についてうえと同じ結果がえられる。対称性  $f_z^*(z) = f_z^*(-z)$  に注目すると、 $z$  の密度として定理に述べたものをえることができる。

定理 規準正規分布の  $k$  次 ( $k$  は偶数) のモーメントはつぎの通りである。

$$\mu_k' = 2^{k/2} \frac{\Gamma(1/2 + k/2)}{\Gamma(1/2)}$$

証明

$$\mu_k' = \int_{-\infty}^{\infty} \frac{(1/2)^{1/2}}{\Gamma(1/2)} e^{-z^2/2} z^k dz$$

$$= \frac{(1/2)^{1/2}}{\Gamma(1/2)} 2^{k/2+1/2} \int_0^{\infty} e^{-x} x^{1/2+k/2-1} dx,$$

$$z^2 = 2x, \quad dz/dx = 2^{-1/2} x^{-1/2}$$

$$= 2^{k/2} \frac{1}{\Gamma(1/2)} \Gamma\left(\frac{1}{2} + \frac{k}{2}\right)$$

なお、 $k$  が奇数のときにはつぎのものをえる。

$$\mu_k' = \int_0^{\infty} \frac{(1/2)^{1/2}}{\Gamma(1/2)} e^{-z^2/2} z^k dz + \int_{-\infty}^0 \frac{(1/2)^{1/2}}{\Gamma(1/2)} z^{-z^2/2} dz = 0$$

定理 規準正規分布の 1 次, 2 次のモーメントはつぎの通りである。

$$\mu_1' = 0$$

$$\mu_2' = 1$$

#### 4. ベータ関数にもとづくもの

##### ベータ分布

定理 それぞれパラメーター  $\lambda, \alpha_1$  および  $\lambda, \alpha_2$  (ここに  $\lambda$  は共通) のガンマ分布をもつ統計的に独立なランダム変数  $Y_1, Y_2$  の商

$$V = Y_1/Y_2$$

の密度はつぎのものによって与えられる。

$$f_V(v) = \frac{1}{B(\alpha_1, \alpha_2)} \frac{v^{\alpha_1-1}}{(1+v)^{\alpha_1+\alpha_2}} \quad v > 0$$



$v \leq 0$  であると  $f_V(v) = 0$  である。

(注) このとき  $V$  はパラメーター  $\alpha_1, \alpha_2$  のベータ分布をもつといわれる。

証明  $Y_1, Y_2$  の密度関数はそれぞれ(5)に与えられている。

補論の「商の分布」の結果を適用してつぎのものをえることができる。

ここでは  $0 < v = y_1/y_2 < \infty$  のときに注目する。そして  $\Gamma_0 = \Gamma(\alpha_1) \times \Gamma(\alpha_2)$  の記号を用いる。

$$\begin{aligned} f_V(v) &= \Gamma_0^{-1} \lambda^{\alpha_1 + \alpha_2} \int_0^\infty y_2 (y_2)^{\alpha_2 - 1} e^{-\lambda y_2} (y_2 v)^{\alpha_1 - 1} e^{-\lambda y_2 v} d y_2 \\ &= \Gamma_0^{-1} \lambda^{\alpha_1 + \alpha_2} v^{\alpha_1 - 1} \int_0^\infty y_2^{\alpha_1 + \alpha_2 - 1} e^{-y_2 \lambda (1+v)} d y_2 \\ &= \Gamma_0^{-1} \lambda^{\alpha_1 + \alpha_2} v^{\alpha_1 - 1} [\lambda (1+v)]^{-(\alpha_1 + \alpha_2)} \int_0^\infty z^{\alpha_1 + \alpha_2 - 1} e^{-z} d z \\ &= \frac{1}{B(\alpha_1, \alpha_2)} \frac{v^{\alpha_1 - 1}}{(1+v)^{\alpha_1 + \alpha_2}}, \quad 0 < v < \infty \end{aligned}$$

ここで変換  $y_2 = z / [\lambda (1+v)]$  を施した。

定理 パラメーター  $\alpha_1, \alpha_2$  のベータ分布の  $k$  次のモーメントはつぎの通りである。

$$\mu_k' = B_0^{-1} B(\alpha_1 + k, \alpha_2 - k)$$

$$B_0 = B(\alpha_1, \alpha_2)$$

証明  $\mu_k' = B_0^{-1} \int_0^\infty \frac{v^{\alpha_1 + k - 1}}{(1+v)^{\alpha_1 + \alpha_2}} d v$

$$= B_0^{-1} \int_0^\infty \frac{v^{\alpha_1 + k - 1}}{(1+v)^{(\alpha_1 + k) + (\alpha_2 - k)}} d v$$

$$= B_0^{-1} B(\alpha_1 + k, \alpha_2 - k), \quad \alpha_2 - k > 0$$

定理 パラメーター  $\alpha_1, \alpha_2$  のベータ分布の 1 次, 2 次のモーメントはつぎの通りである。

(注) これは第 2 種のベータ分布とよばれるものである。第 1 種のベータ分布の密度関数はつぎのようにあらわされている。

$$f_V(v) = \frac{1}{B(\alpha_1, \alpha_2)} v^{\alpha_1 - 1} (1-v)^{\alpha_2 - 1}, \quad 0 < v < 1$$

そのほかの  $v$  の値のところでは  $f_V(v) = 0$  である。

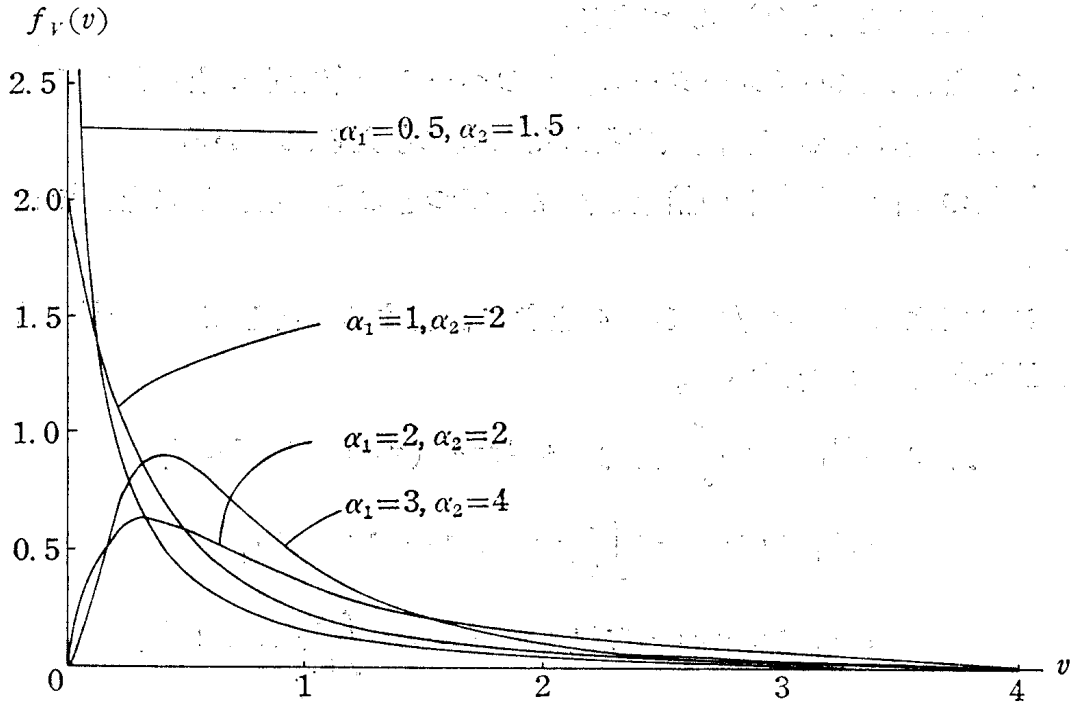


図3 ベータ分布

$$\mu_1' = \frac{\alpha_1}{\alpha_2 - 1}$$

$$\mu_2' = \frac{(\alpha_1 + 1)\alpha_1}{(\alpha_2 - 1)(\alpha_2 - 2)}$$

### デルタ分布

定理 パラメーター  $\alpha_1, \alpha_2$  のベータ分布をもつ変量  $V$  を

$$X = \frac{\alpha_2}{\alpha_1} V$$

と変換してえる  $X$  の密度はつぎのものによって与えられる。このとき  $X$  はパラメーター  $\alpha_1, \alpha_2$  のデルタ分布をもつとよぶ。

$$f_{\Delta}(x) = \frac{1}{B(\alpha_1, \alpha_2)} \frac{\frac{\alpha_1}{\alpha_2} \left[ \frac{\alpha_1}{\alpha_2} x \right]^{\alpha_1 - 1}}{\left[ 1 + \frac{\alpha_1}{\alpha_2} x \right]^{\alpha_1 + \alpha_2}} \quad x > 0$$

$x \leq 0$  のとき  $f_{\Delta}(x) = 0$  である。

証明  $V$  の密度はまえの定理に述べられている。ここでつぎの変換を施すと定理に述べられている密度をえる。

$$x = \frac{\alpha_2}{\alpha_1}v, \quad v = \frac{\alpha_1}{\alpha_2}x, \quad \frac{dv}{dx} = \frac{\alpha_1}{\alpha_2}$$

定理 パラメーター  $\alpha_1, \alpha_2$  のデルタ分布の  $k$  次のモーメントはつぎの通りである。

$$\mu_k' = \left(\frac{\alpha_2}{\alpha_1}\right)^k B_0^{-1} B(\alpha_1 + k, \alpha_2 - k)$$

$$B_0 = B(\alpha_1, \alpha_2)$$

証明

$$\begin{aligned} \mu_k' &= \left(\frac{\alpha_1}{\alpha_2}\right) B_0^{-1} \int_0^\infty \frac{x^k \left[\frac{\alpha_1 x}{\alpha_2}\right]^{\alpha_1 - 1}}{\left[1 + \frac{\alpha_1 x}{\alpha_2}\right]^{\alpha_1 + \alpha_2}} dx \\ &= \left(\frac{\alpha_2}{\alpha_1}\right)^k B_0^{-1} \int_0^\infty \frac{u^{\alpha_1 - 1}}{(1+u)^{\alpha_1 + \alpha_2}} du \quad x = \frac{\alpha_2}{\alpha_1}u \\ &= \left(\frac{\alpha_2}{\alpha_1}\right)^k B_0^{-1} B(\alpha_1 + k, \alpha_2 - k) \end{aligned}$$

定理 パラメーター  $\alpha_1, \alpha_2$  のデルタ分布の 1 次, 2 次のモーメントはつぎの通りである。

$$\mu_1' = \frac{\alpha_1}{\alpha_2 - 1}$$

$$\mu_2' = \frac{(\alpha_1 + 1)\alpha_2^2}{\alpha_1(\alpha_2 - 1)(\alpha_2 - 2)}$$

### スネデカーの $F$ 分布

定理 パラメーター  $\alpha_1, \alpha_2$  のデルタ分布において  $\alpha_1, \alpha_2$  をそれぞれ  $r_1/2, r_2/2$  ( $r_1, r_2$  は正の整数) とおいたものの密度はつぎのもので与えられ, 自由度  $r_1, r_2$  の  $F$  分布,  $F(r_1, r_2)$  をもつといわれる。

$$f_F(x) = \frac{1}{B\left(\frac{r_1}{2}, \frac{r_2}{2}\right)} \frac{\frac{r_1}{r_2} \left[\frac{r_1 x}{r_2}\right]^{r_2/2 - 1}}{\left[1 + \frac{r_1 x}{r_2}\right]^{(r_1 + r_2)/2}} \quad x > 0$$

$x \leq 0$  のとき  $f_F(x) = 0$  である。

定理 自由度  $r_1, r_2$  の  $F$  分布の  $k$  次, 1 次, 2 次のモーメントはつぎの通りである。

$$\mu_k' = \left(\frac{r_2}{r_1}\right)^k B_0^{-1} B\left(\frac{r_1}{2} + k, \frac{r_2}{2} - k\right)$$

## 種々の確率分布の密度

Γ関数にもとづくもの	密度関数	変域
ガンマ分布 ( $\lambda, \alpha$ )	$\frac{\lambda^\alpha}{\Gamma(\alpha)} e^{-\lambda y} y^{\alpha-1}$	$y > 0$
$x^2(r)$	$\frac{(1/2)^{r/2}}{\Gamma(r/2)} e^{-y/2} y^{r/2-1}$	$y > 0$
$x^2(1)$	$\frac{(1/2)^{1/2}}{\Gamma(1/2)} e^{-y/2} y^{1/2-1}$	$y > 0$
$N(0, 1)$	$\frac{(1/2)^{1/2}}{\Gamma(1/2)} e^{-z^2/2}$	$-\infty < z < \infty$
B関数にもとづくもの	密度関数	変域
ベータ分布 ( $\alpha_1, \alpha_2$ )	$\frac{1}{B(\alpha_1, \alpha_2)} \frac{v^{\alpha_1-1}}{[1+v]^{\alpha_1+\alpha_2}}$	$v > 0$
デルタ分布 ( $\alpha_1, \alpha_2$ )	$\frac{1}{B(\alpha_1, \alpha_2)} \frac{\alpha_1 \left[ \frac{\alpha_1}{\alpha_2} x \right]^{\alpha_1-1}}{\left[ 1 + \frac{\alpha_1}{\alpha_2} x \right]^{\alpha_1+\alpha_2}}$	$x > 0$
$F(r_1, r_2)$	$\frac{1}{B\left(\frac{r_1}{2}, \frac{r_2}{2}\right)} \frac{\frac{r_1}{r_2} \left[ \frac{r_1}{r_2} x \right]^{r_2/2-1}}{\left[ 1 + \frac{r_1}{r_2} x \right]^{(r_1+r_2)/2}}$	$x > 0$
$F(1, r)$	$\frac{1}{B\left(\frac{1}{2}, \frac{r}{2}\right)} \frac{\frac{1}{r} \left[ \frac{1}{r} x \right]^{r/2-1}}{\left[ 1 + \frac{1}{r} x \right]^{(1+r)/2}}$	$x > 0$
$t(r)$	$\frac{1}{B\left(\frac{1}{2}, \frac{r}{2}\right)} \frac{\left[ \frac{1}{r} \right]^{-1/2}}{\left[ 1 + \frac{1}{r} t^2 \right]^{(1+r)/2}}$	$-\infty < t < \infty$

変域外の密度は0

$$B_0 = B\left(\frac{r_1}{2}, \frac{r_2}{2}\right)$$

$$\mu_1' = \frac{r_2}{r_2 - 2}$$

$$\mu_2' = \frac{(r_1 + 2)r_2^2}{r_1(r_2 - 2)(r_2 - 4)}$$

スチューデントの  $t$  分布

関数およびモーメント

$k$ 次のモーメント	1 次	2 次
$\left(\frac{1}{\lambda}\right)^k \frac{1}{\Gamma(\alpha)} \Gamma(\alpha+k)$	$\frac{\alpha}{\lambda}$	$\frac{(\alpha+1)\alpha}{\lambda^2}$
$2^k \frac{1}{\Gamma(r/2)} \Gamma\left(\frac{r}{2}+k\right)$	$r$	$(r+2)r$
$2^k \frac{1}{\Gamma(1/2)} \Gamma\left(\frac{1}{2}+k\right)$	1	3
$2^{k/2} \frac{1}{\Gamma(1/2)} \Gamma\left(\frac{1}{2}+\frac{k}{2}\right)$	0	1
$k$ 次のモーメント	1 次	2 次
$\frac{1}{B(\alpha_1, \alpha_2)} B(\alpha_1+k, \alpha_2-k)$	$\frac{\alpha_1}{\alpha_2-1}$	$\frac{(\alpha_1+1)\alpha_1}{(\alpha_2-1)(\alpha_2-2)}$
$\left(\frac{\alpha_1}{\alpha_2}\right)^k \frac{1}{B(\alpha_1, \alpha_2)} B(\alpha_1+k, \alpha_2-k)$	$\frac{\alpha_1}{\alpha_2-1}$	$\frac{(\alpha_1+1)\alpha_2^2}{\alpha_1(\alpha_2-1)(\alpha_2-2)}$
$\left(\frac{r_2}{r_1}\right)^k \frac{1}{B\left(\frac{r_1}{2}, \frac{r_2}{2}\right)} B\left(\frac{r_1}{2}+k, \frac{r_2}{2}-k\right)$	$\frac{r_2}{r_2-2}$	$\frac{(r_1+2)r_2^2}{r_1(r_2-2)(r_2-4)}$
$r^k \frac{1}{B\left(\frac{1}{2}, \frac{r}{2}\right)} B\left(\frac{1}{2}+k, \frac{r}{2}-k\right)$	$\frac{r}{r-2}$	$\frac{3r^2}{(r-2)(r-4)}$
$r^{k/2} \frac{1}{B\left(\frac{1}{2}, \frac{r}{2}\right)} B\left(\frac{1}{2}+\frac{k}{2}, \frac{r}{2}-\frac{k}{2}\right)$	0	$\frac{r}{r-2}$

定理 変量  $F$  が自由度  $1, r$  の  $F$  分布をもつとき,  $T=F^{1/2}$  はつぎの密度をもち, 自由度  $r$  の  $t$  分布  $t(r)$  をもつといわれる。

$$f_T(t) = \frac{1}{B\left(\frac{1}{2}, \frac{r}{2}\right)} r^{-1/2} \left(1 + \frac{t^2}{r}\right)^{-(r+1)/2}, \quad -\infty < t < \infty$$

証明 自由度  $r_1, r_2$  の  $F$  分布の密度関数において,  $r_1=1, r_2=r$  とおき, つぎの変換を施す。

$$t = f^{1/2}, \quad f = t^2, \quad df/dt = 2t$$

$t > 0$  のときつぎのものをえる。

$$h^*(t) = 2B_0^{-1}r^{-1/2} \left(1 + \frac{t^2}{r}\right)^{-(r+1)/2} \quad t > 0$$

$$B_0 = B\left(\frac{1}{2}, \frac{r}{2}\right)$$

$t < 0$  のときにも同じ結果をえる。ここで  $h^*(t) = h^*(-t)$  に注目すると定理に述べた密度をえる。

定理 自由度  $r$  の  $t$  分布の  $k$  ( $k$  は偶数) 次のモーメントはつぎの通りである。

$$\mu_k' = r^{k/2} B_0^{-1} B\left(\frac{1}{2} + \frac{k}{2}, \frac{r}{2} - \frac{k}{2}\right), \quad r > k$$

証明

$$\begin{aligned} \mu_k' &= B_0^{-1} r^{-1/2} \int_{-\infty}^{\infty} \left(1 + \frac{t^2}{r}\right)^{-(r+1)/2} t^k dt \\ &= 2r^{-1/2} B_0^{-1} \int_0^{\infty} \left(1 + \frac{t^2}{r}\right)^{-(r+1)/2} t^k dt \\ &= r^{-1/2} B_0^{-1} \int_0^{\infty} (1+v)^{-(r+1)/2} r^{k/2} v^{k/2} r^{1/2} v^{-1/2} dv \\ &= r^{k/2} B_0^{-1} \int_0^{\infty} \frac{v^{(k+1)/2-1}}{(1+v)^{(r+1)/2}} dv \\ &= r^{k/2} B_0^{-1} B\left(\frac{1}{2} + \frac{k}{2}, \frac{r}{2} - \frac{k}{2}\right) \quad r - k > 0 \end{aligned}$$

ここでつぎの変数変換を施した。

$$t^2 = v/r, \quad dt = \frac{1}{2} r^{1/2} v^{-1/2} dv, \quad t^k = r^{k/2} v^{k/2}$$

$k$  が奇数のときにはつぎのものをえる。

$$\begin{aligned} \mu_k' &= B_0^{-1} r^{-1/2} \int_0^{\infty} \left(1 + \frac{t^2}{r}\right)^{-(r+1)/2} t^k dt \\ &\quad + B_0^{-1} r^{-1/2} \int_{-\infty}^0 \left(1 + \frac{t^2}{r}\right)^{-(r+1)/2} t^k dt = 0 \end{aligned}$$

定理 自由度  $r$  の  $t$  分布の 1 次, 2 次のモーメントはつぎの通りである。

$$\mu_1' = 0$$

$$\mu_2' = r/(r-2)$$

## 補 論

定理 統計的に独立の正のランダム変数,  $Y$ ,  $Z$  の商  $V=Y/Z$  の密度はつぎのもので与えられる。

$$f_v(v) = \int_0^{\infty} z f_z(z) f_Y(zv) dz$$

証明 独立の  $Y$ ,  $Z$  の結合密度は  $f_Y(y) f_Z(z)$  とあらわされる。集合  $(y, z)$  はつぎのようにあらわされる。

$$\begin{aligned} & \{(y, z) | 0 < y < \infty, 0 < z < \infty, y < z \leq v\} \\ & = \{(y, z) | 0 < y < zv, 0 < z < \infty\} \end{aligned}$$

このとき商の分布関数はつぎのようにしてもとめられる。

$$\begin{aligned} F_v(v) &= \int_0^{\infty} \int_0^{zv} f_z(z) f_Y(y) dy dz \\ &= \int_0^{\infty} f_z(z) \{F_Y(y) \Big|_0^{zv}\} dz \\ &= \int_0^{\infty} f_z(z) [F_Y(zv) - F_Y(0)] dz \end{aligned}$$

これを  $v$  について微分してつぎのものをえる。

$$f_v(v) = \frac{dF_v(v)}{dv} = \int_0^{\infty} f_z(z) z f_Y(zv) dz$$